

DI 調査結果（令和5年1月-3月期）

一般社団法人石川県鉄工機電協会

概況総括：『売上高と収益状況が悪化、更には原材料やエネルギー関連価格の高騰による収益逼迫と海外経済の動向に留意する必要がある、先行きは不透明である。』

【調査概要】

1. 今期(令和5年1月-3月期)の業況調査DI12項目では、「売上高」など5項目がプラス、「収益状況」など7項目がマイナスとなり、11項目が悪化している。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの9項目では、
  - (1) 景況感を端的に表す「売上高」は、1.9(前回26.6)と大きく減少した。また高騰が続く「原材料価格」が若干改善しながらも▲65.3(前回▲68.5)と依然として高値で推移している。「収益状況」も▲25.4(前回▲8.1)と悪化し、価格転嫁が出来ていない状況が窺える。
  - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」10.2(前回12.3)、「受注残」14.4(前回14.6)、「生産設備」12.2(前回16.7)と、いずれも減少であるものの、プラスを維持している。
3. 来期については、「来期受注」▲6.3(前回5.1)と、9期ぶりにマイナスに転じた。「来期採算」▲18.7(前回▲10.5)「来期資金繰」▲9.4(前回▲2.7)も悪化しており、先行きは不透明感が強くなってきている。
4. 「企業経営上の悩み」については、「人材不足」が31.5(前回33.3)と減少ながらも引き続きトップとなっており、自動化や省人化の取組みが急がれる。また、原材料やエネルギー関連価格の高騰等により「採算」が11.6(前回6.3)と9年ぶりに10ポイントを超え、今後の価格転嫁の成否が課題となっている。
5. 景況感の下振れ傾向にあり、依然として原材料やエネルギー関連価格の高騰で収益状況が逼迫している。加えて、長引くロシア・ウクライナ問題や米銀行破綻等による世界経済の不安があり、先行きは不透明感がさらに強くなっている。

